1月

みんぱくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間　14時30分から15時30分
■展示観覧料が必要です。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんぱく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別！
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

9日（日曜日）
話者：田村克己（民族社会研究部教授）
話題：ハノイのえべっさん
場所：本館展示場内東南アジア休憩所

16日（日曜日）
話者：宇田川妙子（民族社会研究部准教授）
話題：イタリアの家族の現在
場所：本館展示場内ナビひろば

23日（日曜日）
話者：池谷和信（民族社会研究部教授）
話題：森と人とのかかわり―日本からアマゾンへ―
場所：本館展示入口

30日（日曜日）
話者：新免光比呂（民族文化研究部准教授）
話題：バルカン半島の諸言語と慣習
場所：本館展示場内ナビひろば

1年間みんぱくに何度でも入館できる「みんぱくフリーパス（3,000円）」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
◆みんぱくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引　など。
詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
（電話06−6877−8893／平日9：00 ～ 17：00）

編集後記

敵から逃れるための大きな耳と逃げ足に加えて、発情周期を短くするという戦略を選んだウサギの繁殖率は高い。スポーツハンティング用に白人がオーストラリアにもち込んだウサギが、天敵の少ない新天地で驚くほど増えて牧草地を荒らし、困った白人がウサギよけフェンスを張り巡らしたが結局役立たなかった、という話は、本誌2003年12月号『裸足の1500マイル』をみる」で紹介した。ウサギが多産、豊穣、性のシンボルとなったのもうなずける。これら特性を映した各文化におけるウサギ観は、特集で論じられているとおりだ。

ちょうど今、展示場でもウサギを論じている。2月1日まで開かれている年末年始展示イベント「うさぎ」では、本号で写真を掲げたものも含む標本資料約50点のほか、教員が各地で撮影したウサギと人のかかわりを示す写真や動画、関連する書籍も展示される。

特集冒頭にある「兎の角論」は、ありえないものごとを指す「兎角亀毛」ということばからきているそうだが、何でもありの現代、頭をやわらかくする年初にしたいものだ。（久保正敏）

●表紙：月にすむとされるウサギをあらわした玉兎。張り子人形（日本 福島県）標本番号 H0013154

次号の予告

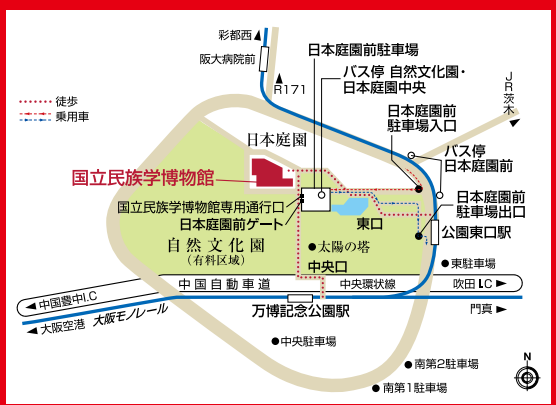
特集
鬼はソト、鬼はウチ

月刊みんぱく　2011年1月号
第35巻第1号通巻第400号　2011年1月1日発行

編集・発行　人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話　06-6876-2151

発行人　西尾哲夫
編集委員　久保正敏（編集長）　朝倉敏夫　樫永真佐夫　庄司博史　中牧弘允　山中由里子
編集アドバイザー　山内直樹
デザイン　宮谷一款
制作・協力　財団法人 千里文化財団
印刷　日本写真印刷株式会社

＊本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
＊本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内
●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
●阪急茨木市駅・JR茨木駅：北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください）。
●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

みんぱくホームページ
http://www.minpaku.ac.jp/